

大学選手権準々決勝～筑波大学に快勝

対抗戦の早稲田戦に勝利し、対抗戦を2位通過した明治は、ラグビーの大学選手権の初戦で秩父宮ラグビー場で準々決勝で筑波大学と対戦しました。

10月のいわきでの対抗戦の試合では前半14対14、後半は筑波に先行され後半12分に追いついて試合の終盤に3トライを追加して突き放して40対21で勝利。

先週の3回戦では筑波が流通経済大に33対27で競り勝ち調子を上げてきており侮れない相手です。

ただ、我々観戦仲間の間では、筑波は伝統的にフィットネスが後半に落ちてくるので、前半競っても最終的には明治が勝利するだろうということで、意見が一致していました。

果たして試合の展開は。前半17分に明治がトライを取るまでは拮抗した展開で、筑波にトライを1本返されたものの、終了間際にトライを追加して17対7で前半を終了。

後半も明治が追加点を取ったのが22分。それからは見立て通りで連続して得点し、45対7で準決勝進出を決めました。

試合を通じて感じたのは、ペナルティの少なさです。筑波戦も試合を通じて反則は早稲田戦に続けてひとケタの3。筑波に攻め込まれて守勢となる時間帯もあった中、反則をしないで守り切った点は素晴らしいと思います(因みに準決勝で対戦する京産大の準々決勝での反則数は11です)。

正月2日の準決勝は京産大との対戦です。早稲田に勝って勢いに乗る関西チャンピオンで、簡単に勝てる相手ではありません。早稲田はフォワード戦で劣勢になったために、65対28で敗れました。一つ言えるのは、小手先では勝てる相手ではないということです。

明治としても真っ向勝負でチャレンジャーの気持ちで臨むことが大切です。規律の高いディフェンスと後半のフィットネス(留学生も80分間走り続けるのは困難と思われます)、リザーブ陣も含めた層の厚さで、しっかりと準備をすれば結果はついてくるものと信じます。

国立地域支部 越智 浩治
(1984年商学部卒)





17 二重 廣瀬	筑波大学	明治大学	17 中山 待希
2 三好 真	2nd 1st	1st 2nd	16 胡野 啓平
18 藤生 勇樹	0 1 T 3 4		18 森島 西廉
4 白鳥 颯乃	0 1 G 1 4		18 坂井 大地
5 柳澤 太朗	0 0 PG 0 0		20 利根 和生
20 木下 貴海	0 0 DG 0 0		20 木戸 大士
8 金山 尊太	0 7 SCORE 17 28		21 栗部 斗
21 山井 海	7 TOTAL 45		10 伊藤 隼太郎
11 大畑 亮太	REF 水谷 元紀(廣瀬会)		23 山行 和也
12 大隅 山陽			22 山田 淳平
13 船岡 颯人			14 安田 昂平
14 堀山 昂			15 池戸 将太郎
23 藤原 祥生			

